

Ⅲ ふるさとへの誇りの醸成

Ⅰ 歴史・文化資源の保存・公開と活用

歴史や文化は、地域をつなぎ育ててきた大切な基盤です。先人が残してきた「地域の宝」である文化財や古くから伝わる伝統文化の価値を明らかにし、共有することで後世へ継承します。これら豊かな歴史・文化資源を保存・可視化するとともに活用を促進し、地域の活性化やまちづくりにもつなげていきます。

（Ⅰ）誇れる文化資源の保護と未来への継承

① 現状と課題

地域に残る貴重な文化財については、所有者の高齢化や後継世代での関心の希薄化により、散逸・衰退が危惧されており、継続的な保存や管理が求められています。特に寺院や建造物、民俗文化財などの分野は調査に一定の期間を要するため、市内全域での把握にむけて今後も継続的にその調査・整理に努める必要があります。

市で保管している美術工芸品をはじめ、考古資料、民具などの資料については市内各所に分散保管しているのが現状で、これらを適正に保存し、活用するためには、資料の再整理と新たに受入れできる拠点施設の整備が必要です。

② 方針

〔市内文化財の調査と指定〕

ア 市内での文化財調査を引き続き行います。文化財的価値に応じて、市の文化財に指定するほか、特に重要なものは、国や県に文化財への指定を働きかけていきます。

〔伝統工芸関連文化財の指定・保存〕

イ 伝統工芸関連の技術を継承・保存すると同時に、資料や道具等を文化財に指定し周知することで、ブランド化を図り、地域の魅力発信にもつなげます。

〔建造物や民俗分野の調査実施〕

ウ 未調査の建造物や民俗分野について、毎年数件ずつ調査を実施し、文化的価値を明確にしていくことで、地域の関心を高め、適切な保存と活用につなげていきます。

〔文化財拠点施設の整備と専門人材の確保〕

エ 市内各所に分散保管されている資料を整理するとともに、文化財の調査・保存・整理・分類・公開・体験を集約して行うことができる拠点施設と体制の整備に努めます。

③ 関連する計画

・市文化財保存活用地域計画

④ 優先的に取り組む事業

- ア 越前国府跡の発掘調査
- イ 大瀧神社建造物調査・屋根改修
- ウ 越前打刃物の文化財指定及び越前指物に関する資料や道具等の調査
- エ 社寺や民家等の歴史的建造物や民俗文化財の調査



越前打刃物保存会による講習会の様子

(2) 歴史文化に触れる機会の提供

① 現状と課題

市民が文化財に触れ、郷土の歴史に愛着や誇りが持てる機会を創出するなど、「地域の宝」である歴史・文化資源を活用したまちづくりが求められています。

武生公会堂記念館では、定期的に本市ゆかりの偉人や文化財、歴史文化を紹介する展覧会を開催するなど、市の魅力を発信し、市民の歴史文化に対する興味・関心の喚起に努めていますが、特に若い世代では関心が薄く、来館者の増加につながるような企画の充実を図る必要があります。

また、郷土の歴史を後世に伝えるため、市内外に残されている資料の収集、調査を行い、定期的に『越前市史』資料編を刊行していますが、調査、執筆等を担う人材の確保、育成が必要です。さらに、市史は本市の歴史をより深く知ることができる資料として、市民に活用されることが重要です。

② 方針

〔伝統文化の継承・発展のための支援〕

ア 祭礼行事、民俗芸能、伝統工芸などの個性豊かな伝統文化の継承・発展を図るため、市文化財保存活用地域計画に基づき各団体が実施する事業を支援します。

〔文化財や伝統文化の本質に触れる機会の創出〕

イ 武生公会堂記念館では、文化財や伝統文化が生み出された背景や意義が伝わるような企画を創出することで郷土の歴史文化への探究につなげます。

ウ 文化財の修復現場で見学会を開催したり、出前講座で直接出向いて伝統的技術を紹介したりする機会を設けます。

〔『越前市史』の刊行と活用〕

エ 郷土の歴史を後世に伝えるため、計画的に『越前市史』を刊行し、えちぜん市民大学での講座や図書館での企画展示の活用など、郷土に対する理解と愛着を醸成します。

〔文化財調査の成果公開〕

オ 文化財調査の成果について、説明会や展示、講座等を開催し、広く市民に公開します。また、公開にあたりデジタル技術の手法も活用します。

③ 関連する計画

・市文化財保存活用地域計画

④ 優先的に取り組む事業

ア 国府発掘調査など、文化財調査結果を踏まえた展示や講座等の実施

イ 『越前市史』の刊行と市史を活用した各種講座等での郷土の歴史紹介

ウ VR(Virtual Reality:仮想現実)など、デジタル技術を活用した調査成果の公開



VR を活用した調査成果の公開

2 豊かな心を育む芸術文化活動

芸術文化は、人々に感動や生きる喜びをもたらして人生を豊かにするものであると同時に、社会全体を活性化する上で大きな力となるものであり、市民の誰もが芸術文化に触れ親しむことができる機会を創出していくことで、心豊かで潤いがあるふるさとづくりを推進します。

(1) 誰もが触れ合い参加できる芸術文化活動の創出

① 現状と課題

「市民総合文化祭」「武生国際音楽祭」「源氏物語アカデミー」など、市民による主体的で多彩な芸術文化活動が、長年にわたり実施されています。今後も市民の多様な芸術文化が発展し持続するためには、活動の自立的な運営を促すとともに、財政支援を行う必要があります。

また、誰もが身近に芸術文化を感じることができるよう、個人や小さな活動団体への発表の場の提供や新たに芸術活動を行おうとしている新人芸術家への支援も必要です。

アンケートによると、芸術文化を鑑賞したり活動したりすることが必要と思う反面、自ら活動しようとは思わない人が多い現状が見られました。芸術文化に触れるきっかけを提供することで、芸術文化活動に興味を持つ人を増やしていくとともに、気軽に楽しむことができる環境を作っていく必要があります。

② 方針

〔芸術文化活動への支援〕

ア 芸術文化は、地域への愛着を深め、次世代のために継承すべき文化的価値があります。市民の多様な芸術文化の継続・発展を促し、地域の文化的な活力を高めていくために事業補助など公的支援を行います。

〔活動の場、発表の場の提供〕

イ 性別、年齢、障がいの有無や国籍等にかかわらず、誰もが本物の芸術文化に直接触れたり、創造活動に参加したりすることにより、多くの感動体験から豊かな感受性が育まれるよう、市文化協議会や市文化振興・施設管理事業団等と連携し、各種イベントを企画・開催することで、幅広い世代に芸術文化活動の体験や発表ができる場を提供します。

〔芸術文化活動の情報発信〕

ウ 芸術文化活動の情報をSNSなどを活用し、発信することで「文化の都 越前市」のイメージアップを図ります。

③ 優先的に取り組む事業

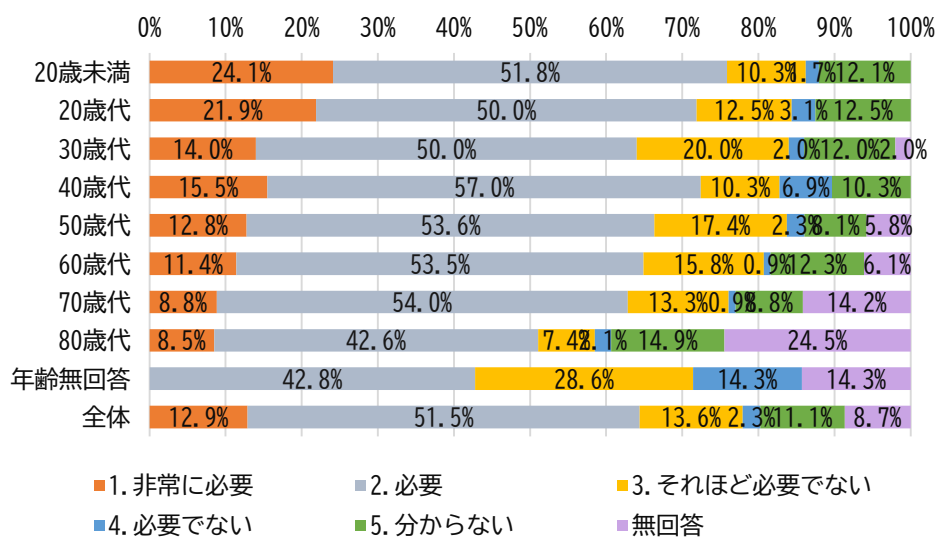
- ア 市民による主体的な芸術活動に対する継続支援
- イ 小さな活動団体の活動の場や発表の場を提供
- ウ 新進芸術家のマスコミ等への広報支援



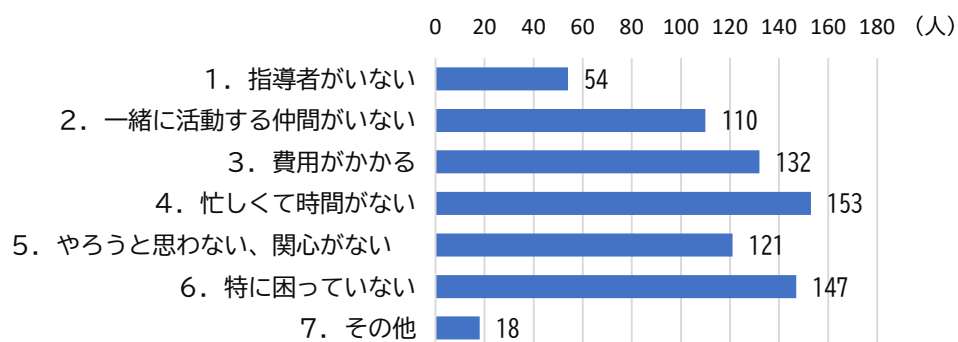
市民総合文化祭

● 市民アンケートの結果（９）

Q. あなたは芸術文化を鑑賞したり、活動したりすることが必要だと思いますか。



Q. あなたが芸術文化活動をする際に困る（困った）ことは何ですか？
（3つまでの複数回答）



芸術文化に関する市民意識調査〔16歳以上の市民〕（R6実施）

※対象 無作為に抽出した16歳以上の市民2,000人（回答率：30.6%）

(2) 魅力ある文化・芸術鑑賞機会の充実

① 現状と課題

文化三館(文化センター、いまだて芸術館、ふるさとギャラリー叔羅)では、同一指定管理者による運営という利点を生かした効率的な自主文化事業を開催し、芸術鑑賞機会の提供に努めていますが、芸術・文化事業の質を確保しつつも、収益性において一定の入場者数を確保することが課題となっています。

武生公会堂記念館では、郷土の歴史・文化や芸術の鑑賞の機会を提供していますが、多岐にわたる質の高い展示に対応するため、専任の学芸員の配置・育成が課題となっています。

また、令和4年度の博物館法の改正により、博物館が文化観光、まちづくりなど、社会的・地域的課題と向き合うための場として位置付けられたことから、望ましい博物館像に向けて武生公会堂記念館の今後のあり方を検討する必要があります。

② 方針

[市文化施設の利活用の促進]

ア 文化三館を芸術文化活動の拠点とし、施設の機能充実や適正な維持管理、鑑賞機会を充実させた施設運営に努め、利活用を促進します。

[学校と連携した団体鑑賞機会の充実]

イ 武生公会堂記念館では、本市ゆかりの偉人や郷土の歴史文化などを深く掘り起こすなど、質の高い魅力ある展示を行います。

ウ 市内文化施設においては、小・中学校等と連携して子どもたちが本物の芸術文化に触れ、日頃味わえない感動や刺激を直接体験することによって、豊かな人間性と創造性を育むことにつながるよう、団体鑑賞機会の充実を図ります。

[芸術文化事業の情報発信]

エ 市民ニーズや社会情勢に応じた多様な媒体を活用し、市内各文化施設で開催される芸術文化事業の情報を広く発信します。

[新たなファンの獲得]

オ 芸術文化を鑑賞した人(ファン)にSNSを通じ市内文化施設で開催されているイベントの魅力を拡散してもらえよう働きかけることで、新たなファンの獲得を目指します。

[芸術文化を体験できる機会の提供]

カ 施設入所者等、普段、本物の芸術に接する機会の少ない人に芸術文化の楽しさや喜びを伝え、地域交流の活性化を図るため、施設に直接出向き、芸術文化を体験できる機会を提供します(音楽アウトリーチ活動(※用語解説)など)。

③ 優先的に取り組む事業

ア 新たな分野・視点で芸術文化を鑑賞する機会の創出

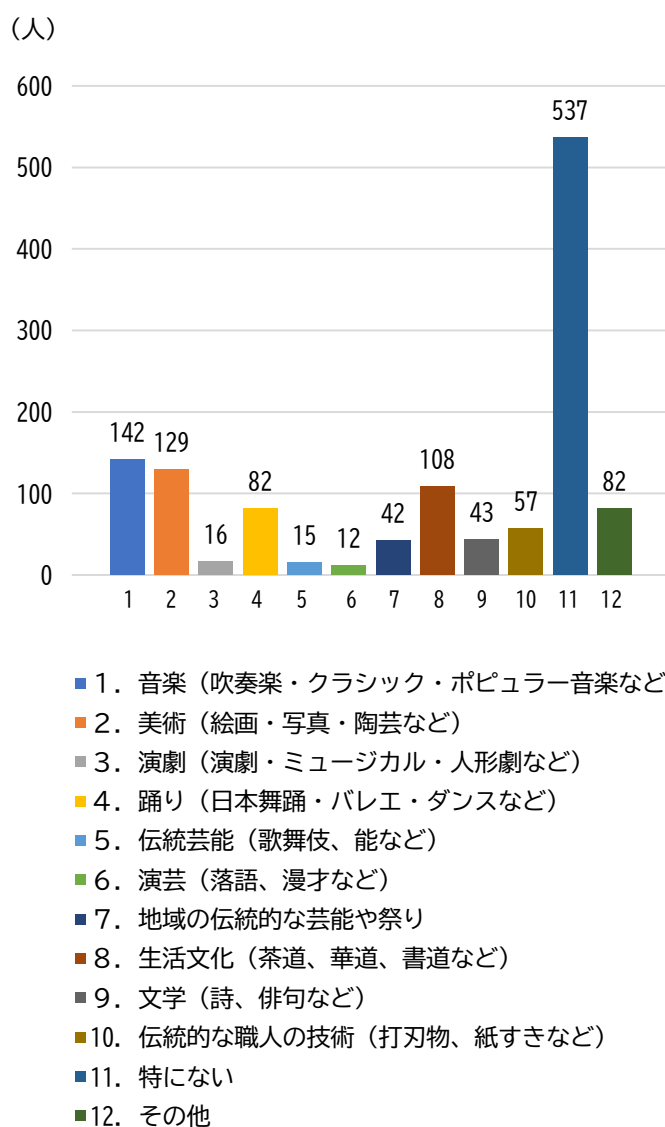
イ スタンプラリーなど文化三館が連動した自主文化事業の展開

ウ 市公式LINEやX、放送媒体など、多様な情報ツールを活用した催事情報の発信強化

エ 博物館法の改正を踏まえた武生公会堂記念館の運営方針の検討

● 市民アンケートの結果（10）

Q. この1年くらいの間に、学校以外場で、自分自身で作品をつくり、習ったりなど、活動した分野は何ですか。（複数回答）



越前市の教育に関するアンケート〔児童・生徒〕（R 6実施）

※対象 市内全小学校の6年生及び全中学校の3年生

1,372人（回答率：74.0%）

(3) 次世代へつなぐ人材の育成

① 現状と課題

本市において培われてきた芸術文化活動の成果は次世代に継承し、発展させることが重要ですが、芸術文化活動団体を構成するメンバーの固定化や高齢化が進んでおり、芸術文化の振興を支える人材を確保し、育成していく方策を多面的に検討する必要があります。

また、SNS の発展など、社会状況の変化に伴い、芸術文化の楽しみ方が変化しており、子どもたちが、本物の芸術文化に触れる機会が少なくなっています。学校における子どもたちの芸術文化の体験活動も減少していることに加え、アンケートからも、子どもが学校以外でも芸術文化に触れる機会がないと回答しています。

幼少期から本物の芸術文化に慣れ親しむことは、豊かな感受性、表現力を育む上で大きな効果があると考えられます。芸術文化の担い手を育成する意味でも、芸術文化に親しむ機会を増やしていくことが重要です。さらに、指導者や活動場所などを確保することも必要です。

② 方針

〔文化事業の支援と人材育成〕

- ア 市民の意欲的な創作活動や市民主体の芸術文化事業などを後援し、事業補助制度に基づく支援を行うとともに、芸術文化団体の育成を図るため、全国大会などの出場者にも支援を行います。
- イ 武生公会堂記念館企画公募展やまちなかコンサートなどで発表の場を提供することにより、芸術文化活動の新たな人材を掘り起こします。
- ウ 市文化協議会と連携し、子どもの頃から伝統文化や生活文化等を継続的に体験・修得できる機会を提供し伝統文化を尊重する心の育成を図ります。

〔芸術文化活動の担い手の拡大とコーディネーターの育成〕

- エ 市民の芸術文化活動の担い手の底辺拡大に加え、担い手同士が互いに助け合い活動を継続するために、市民ニーズに応じた多様な情報の収集・提供ができるコーディネーターの存在が重要であり、その育成に努めます。

〔学校と連携した芸術文化教育の充実〕

- オ 小中学校と連携して、子どもたちに本物の優れた芸術文化・伝統芸能等に触れる機会を提供することで、豊かな心を育み、将来の芸術文化の担い手を育成します。
- カ 学校における芸術文化教育の内容を把握し調整を図りながら、更なる充実・改善方策について検討します。
- キ 地域クラブ活動への移行が進む中で、芸術文化部門の新たな環境構築を検討します。

③ 優先的に取り組む事業

- ア 芸術文化団体や個人の新たな交流や活動のサポートやコーディネート
- イ 子どもや若年層を対象とした、体験・参加型ワークショップの開催
- ウ 子どもたちが本物の優れた芸術文化に触れることができる鑑賞・体験機会の創出
- エ 新たな芸術文化活動環境の構築(「地域クラブ活動」に係る体制の整備)
- オ 新進芸術家に対する発表の場の提供